

2015 年度 関西学院大学自己点検・評価
 < C 票 > 第三者評価結果 【文学研究科】

教育研究目標 1

1. 6 年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と 6 年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と 6 年後のめざす姿（目標）との関係性 （※ 6 年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか）	
「具体的である」 2 名	<p>左記を選択した理由：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近年の博士課程前期・後期課程への進学者数の推移を見極めたうえで、今後の教育目標が適切に掲げられています。（評価者 B） ・ 優れた研究成果を携えた博士学位取得者を安定的かつ継続的に輩出していくことを目標としているため。（評価者 C）
「具体的でない」 1 名	<p>左記を選択した理由：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A：80%～D：20%が何を指しているのか、明確でないように思われます。たとえば充足率の現状を維持するということであれば、6 年後、2021 年度において、博士後期課程在籍者第三学年に 10 名在籍という想定と思われるが、そこでどの程度の学位取得率を想定しているのか、明確でないのではないのでしょうか。（評価者 A）
<p>その他気づいた点：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 根本的な問題として、学位申請論文は学生が書くものですから、最後の最後は指導し支援する研究科のあり方ではなく、学生本人による部分が大きいのは言うまでもないように思います。従って、本来的には、年間何名、といった課題設定をすべきものではないように思われます。そこを定員充足率等といった視点からの評価に対応せねばならない研究科のご苦労はよく理解しているつもりです。（評価者 A） 	
6 年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
<p>目標の内容</p> <p>（設定された 6 年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取り組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）</p>	<p><評価者からのコメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 意欲的か、という視点からは、「現状維持」というところに問題を感じないわけではないのですが、客観的妥当性、現実の問題として考えれば、全体としては適切なものとなっているのではないのでしょうか。 ・ 後期課程進学者数や学位取得者数は、その後も研究者としてのキャリアを継続できるのか、という問題と現実的には密接に結びついているものです。この、人文系の専門的研究者のキャリア形成という問題は、文学研究科単独の問題ではなく、大学全体として、また大学の枠を超えて考えていかねばならないことであるように思います。（評価者 A） ・ 近年の博士課程進学者の状況を踏まえて今後の目標が掲げられていることは、大変に現実的かつ望ましいことだと考えます。（評価者 B） ・ ①②③④とも妥当、適切です。（評価者 C）
<p>評価指標</p> <p>（目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）</p>	<p><評価者からのコメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上述の通り、年間何名程度の学位取得を目指し、それが学生数の何%である、といった個別具体的な数値を明確に示した方が指標としては分かりやすいように思われます。（評価者 A） ・ 妥当です。（評価者 B） ・ 妥当です。（評価者 C）

<p>目標達成スケジュール (目標達成に向けたスケジュール 設定は適切か(長すぎないか、短すぎないか))</p>	<p><評価者からのコメント></p> <ul style="list-style-type: none">・ 大学は基本的に年度単位で動いているものと思いますので、適切と思われます。 (評価者A)・ 適切です。(評価者B)・ 適切です。(評価者C)
--	---

教育研究目標 2

1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 （※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか）	
「具体的である」 3名	左記を選択した理由： ・ 補助金申請の支援という具体的内容を記しているため。（評価者A） ・ 院生に対する既存の研究支援制度をより充実したものへと改善するという目標が、適切に示されています。（評価者B） ・ 文学研究科内「研究支援制度」の見直しを目標としているため。（評価者C）
「具体的でない」 0名	左記を選択した理由：
その他気づいた点：	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
目標の内容 （設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）	<評価者からのコメント> ・ 「研究支援制度」の概要が記されていることが望ましいのではないのでしょうか。（評価者A） ・ 従来からの制度の見直しと点検を通して、より多くの院生が対象となるような支援制度の確立を目指すことには大きな意義があります。（評価者B） ・ ①②③④とも妥当、適切です。（評価者C）
評価指標 （目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）	<評価者からのコメント> ・ 妥当であると思われます。「研究支援に量的評価はなじまない。」との表現には全く同意するものです。（評価者A） ・ 妥当です。（評価者B） ・ 妥当です。（評価者C）
目標達成スケジュール （目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））	<評価者からのコメント> ・ 妥当であると思われます。（評価者A） ・ 適切です。（評価者B） ・ 適切です。（評価者C）

教育研究目標 3

1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 (※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか)	
「具体的である」 3名	<p>左記を選択した理由：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「教員・院生間の学術交流の活性化と各領域の知の結晶化」という目標の内実が示されており、その実現に向けた計画が適切に示されています。（評価者B） ・ 教員・院生間の学術交流の活性化と各領域の知の結集化について、「教員・院生が一堂に会する研究発表会」の実現と「文学研究科特殊講義」の見直しを目標としているため。（評価者C）
「具体的でない」 0名	<p>左記を選択した理由：</p>
<p>その他気づいた点：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学際的な共同研究は試みとして優れたものであると思われます。研究科内のみならず、大学共同研究等との連携を考える方向性もありうるのではないのでしょうか。（評価者A） 	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
<p>目標の内容</p> <p>（設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）</p>	<p><評価者からのコメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究科での高度な専門教育を実現するうえで、教員と院生のあいだでの知的な交流を制度化することは大変に有効な手段であると考えます。（評価者B） ・ ①②③④とも妥当、適切です。（評価者C）
<p>評価指標</p> <p>（目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）</p>	<p><評価者からのコメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なにがどういう状態になったら何%なのか、ということについて、一読してわかる記述にはなっていないように思われます。（評価者A） ・ 妥当です。（評価者B） ・ 妥当です。（評価者C）
<p>目標達成スケジュール</p> <p>（目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））</p>	<p><評価者からのコメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 妥当であるように思われます。（評価者A） ・ 適切です。（評価者B） ・ 適切です。（評価者C）